

# 静宜大學 103 學年度碩士班考試試題

學系：日本語文學系

科目：日文

一、下記の文章を読んで、それぞれの設問に答えなさい。60%

翻訳問題以外、すべて日本語で回答すること。

(一) 22%

外国語学習者<ア>、新たなことばとの出会いは、新たな人との出会いをもたらし、自他の交わり（イ）を深め、つながりを実現させます。ことばの学びは、自らの思考を深め、世界観と視野を広げて<ウ>ます。まさに人間的成長を促し（エ）、自己を確立させる素晴らしい経験をもたらして<ウ>るのです。【オ】

- A. 21世紀《カ》生きる若い人びと<ア>、いまや外国語を学習することは必須のことです。
- B. 若い人たちが複数の外国語を学ぶことの教育的意義は計り知れないものがあるからです。
- C. 彼らがさまざまなことばや文化的背景をもつ世界の人びととつきあい、多言語で交流を行うことができるように、多様なことばを学べる教育環境を世の中の学校に整備しなければなりません。

『外国語学習のめやす』より、一部改編

1. <ア>に入れる適切なことばを下の語彙リストから選んで答えなさい。 2%
2. (イ)の「交わり」の読み方を答えなさい。 2%
3. <ウ>に入れる適切なことばを下の語彙リストから選んで答えなさい。 2%
4. (エ)の「促し」の読み方を答えなさい。 2%
5. 【オ】には上記のA. B. C.の三つの文が続いているのだが、この文章の内容に合わせてA. B. C.の三つの文を並び替えて、記号で答えなさい。 4%
6. 《カ》に入れる適切な助詞を答えなさい。 2%
7. C.の文を中国語に翻訳しなさい。 8%

## 語彙リスト

あげ くれ もらい もらえ これ それ あれ  
について に関して にとって もの こと  
によって に対して

# 静宜大學 103 學年度碩士班考試試題

學系：日本語文學系

科目：日文

(二) 21%

平成に入ってから十年が経過しようとしている。(キ) 昭和天皇の崩御と今上天皇の即位<ク>始まった「平成」という時代の区切りは、本来、経済の流れとは全く(ケ)異なった次元の問題である。

しかしながら、平成に入ってから日本の経済の様相は、昭和の<コ>とは大きく異なったものとなった。昭和経済の歩みは、戦前の戦時体制、戦後の復興・高度経済成長、そして世界で一、二を争う(サ) 経済大国に至った時代と特徴づけられるのに対して、平成に入ってからこの十年間は、バブルとその崩壊による長期不況のため、二十一世紀に向けての悲観論《シ》特徴づけられる。(後略)

『平成不況10年史』より

8. (キ) の文を中国語に翻訳しなさい。 4%
9. <ク>に入れる適切なことばを上語彙リストから選んで答えなさい。 2%
10. (ケ) の「全く」の読み方を答えなさい。 2%
11. <コ>に入れる適切なことばを上語彙リストから選んで答えなさい。 2%
12. (サ) の「争う」の読み方を答えなさい。 2%
13. 《シ》に入れる適切な助詞を答えなさい。 2%
14. 上記の文章から、昭和と平成の経済状況でどちらがより悪いと言えるか、答えなさい。その理由も説明しなさい。 7%

(三) 17%

ウィーンの市電の中には、一つの札(ス) が掛かっている。そこには、イスを壊すと〇〇〇シリング、窓ガラスを破ると〇〇〇シリング、吊り革をちぎると〇〇〇シリング(セ) ……と細かく「値段」が書いてあるのだ。この即物性・具体性がヨーロッパ文化をかたちづくっている。ウィーン市内の交通機関には改札がなく、共通乗車券を(あらかじめあるいはそのつど) 購入して利用する仕組みであり、すべてが各自の良心にゆだねられている。(ソ) その代わり、ときどきヌツと私服の検札官(タ) が入ってくる。そんなときでも、切符を持っていない者は少しも悪びれるところはない。日本のネチネチと「道徳的に」追求する態度《チ》は対照的である。(後略)

『<対話>のない社会』より

15. (ス) の「札」の読み方を答えなさい。 2%
16. (セ) の「シリング」とは何か、説明しなさい。 4%
17. (ソ) の文を中国語に翻訳しなさい。 7%

# 静宜大學 103 學年度碩士班考試試題

學系：日本語文學系

科目：日文

18. (タ) の「検札官」の読み方を答えなさい。 2%

19. 《チ》に入れる適切な助詞を答えなさい。 2%

二、下線の引いてあるところを中国語に訳しなさい。8×2=16%

## スマホフリーの試み

勘違いしそうな英語の一つに「スモークフリー」がある。たばこ吸い放題、ではない。反対に、たばこを吸わない、煙で悩まない、といった意味だから間違えると大変だ。フリーとは本来、何らかの拘束から解放された状態をいう▼それに倣（なら）えば、スマホフリーはスマートフォンを使わないこと。できるわけない、と悲鳴が聞こえそうだが、試みている会社が岐阜県にある。私用のスマホを使わない社員に、毎月5千円の奨励金を出す制度をつかった▼関市の岩田製作所で、正しくはデジタルフリー奨励金と呼ぶ。社員が下を向いてスマホをいじり、昼休みの会話も減った光景に岩田修造社長（65）が考えた▼①「人と話す。本を読む。物思いにふける。そんなアナログ的時間と空間が増えれば、想像力、表現力、他人をおもんばかる力がつく。10年もしたら相当に差が出て、企業としての競争力がつくだろうと思う」。その言葉にうなづく▼社員90人のうち20人が手を挙げた。まだ多くはないが、「全員が挙手する会社なんて気持ち悪い。ぽつぽつと、徐々に変わればいい」。デジタルの奔流に溺れかかる時代に、「手ぶら」の爽快と効用は貴重である▼②思えばスマホは、多種多彩なアプリでいよいよ厚化粧になって、人を手招きする。〈スマホをば二十一世紀の阿片（あへん）とは言い得て妙なり今日の車内は〉と昨年暮れの朝日歌壇にあった。きつい一首だが一面の真実でもあろう。ときには「フリーの風」に吹かれる一日が、あっていいと思う。

2014年2月15日（天声人語）より

三、作文。24%（300字程度、日本語で書くこと）

題目：「宝物」